



尾道駅北口側線に待機中の尾道鉄道の電車(デキ35) 昭和39年(1964)3月23日・中川隆人氏撮影 尾道市蔵

市史広報

第16号

時空を旅するオノテツ紀行

開通から100年、廃線から61年…

沿線停車場御案内

尾道駅

御所橋(一時期の仮駅)

西尾道駅

地方事務所裏(旧農会裏)

青山病院前(旧女学校前)

宮の前(旧宮ノ前)

栗原駅

尾道高校下(旧大池)

三美園

三成駅

木梨口

遊亀橋

木頃本郷(旧美ノ郷)

石畦駅

西校上

畑駅

諸原駅

市駅



尾道駅—市駅間の累計距離:17.1 km

昭和12年(1937)の時刻表より市駅始発 5:42→尾道駅着 6:37



御調町の市と尾道市街を繋いだ私鉄「オノテツ」と尾道鉄道が廃線となって、今年で六十一年の時が経過しました。

始まりは明治の終わりに遡り、尾道・御調・世羅・甲奴の敷設予定町村から三〇〇人を超える発起人が集まり、軽便鉄道の敷設が計画されました。軽便鉄道とは、通常の鉄道よりも低規格、安価、軌間の制約もなく、車輛や設備が簡便な鉄道を意味します。

陰陽連絡を構想して計画された尾道鉄道は、尾道と甲奴郡上下町(現府中市)までの路線で敷設の申請がなされ、大正十四年(一九二五)十一月一日、天満町の西尾道駅と木ノ庄町の石畦駅がまず開通。翌十五年(一九二六)四月二十八日に石畦駅—市駅間が開通し、昭和八年(一九三三)三月二十八日に御所橋の仮駅を経由して尾道駅へ延伸して全通します。しかし尾道駅接続の前年には御調以北の敷設は中止され、陰陽連絡の夢は潰えます(これに取って代わるのが芸備鉄道、後のJR福塩線)。

当初計画からは縮小となったものの、尾道—御調間の幹線交通として、旅客及び貨物輸送を担い、沿線住民や利用客からは「オノテツ」の愛称をもって親しまれた長閑なローカル電車は、戦前から戦後と走り続けましたが、時代はやがて高度経済成長へ、モータリゼーションの進展、利便性・効率性を求める時代がやって来ると、長閑な時を走ったオノテツの存在は薄らぎ、消えゆくものとなります。

昭和三十二年(一九五七)二月に市—石畦間廃止、三十九年(一九六四)八月に全線廃止されて尾道鉄道は姿を消しました。奇しくもその年は、夢の高速鉄道・東海道新幹線が開通した年でもありました。



栗原駅は栗原町亀川、現在の亀川バス停付近に所在し写真の通り二面二線で、列車の交換が可能な駅でした。起終点となる尾道駅と市駅以外では、栗原駅、三成駅、石畦駅、畑駅のみが二面二線の形式にある駅でした。

栗原駅から三美園の沿線

写真左：栗原駅 撮影時期不明・杉原英男氏提供／右：栗原駅に設置されていた駅名標 松原康氏寄贈・尾道市蔵



三美園付近 撮影時期不明・河本泰行氏提供

新尾道駅北側 撮影時期不明・河本泰行氏提供



仙入峠付近 撮影時期不明・河本泰行氏提供

現在の新尾道駅を抜け、国道一八四号線沿いを北へ進むと大池がありますが、この付近に「尾道高校下」の停留所がありました。尾道高校開校以前にあつては「大池」という停留所名でした。
大池を過ぎると栗原町と美ノ郷町三成の境をなす仙入峠（栗原側ではサヤの峠が古名）。この峠の電車往來は、沿線随一の難所として知られ、御調から尾道への上り便で満員電車になると、ノロノロ運転となつて峠越えに「苦労したと言います。」
峠にあつた「三美園」の停留所は昭和二十八年（一九五三）三月に新設されたものでした。

【オノテツ遺構を探せ！】 栗原町、大池三叉路交差点の陸橋東側に石地蔵と共に建つ石碑には、「一寸までんしゃはこぬか」と刻まれています。



写真右上：天満町南に所在した西尾道駅 後方に大きな煙突が見える 前田六二氏提供／同右下：東洋繊維工場横を通過する電車 昭和 30 年（1955）1 月 17 日・細川延夫氏撮影 広島県立歴史博物館蔵・画像提供／写真左：昭和 36 年（1961）頃の東洋繊維の工場群 小西理文氏提供



女学校前（後、青山病院前） 戦前・平山照雄氏提供 尾道市蔵
ホームに降り立つのは女学校の生徒と見られる。車内も満員の様子



宮の前停留所 昭和 39 年（1964）頃・前田六二氏提供
右奥に見える建物は木造校舎の栗原小学校 左手が尾道駅方面



【オノテツ遺構を探せ！】 宮前橋手前（南）の栗原本通り沿い西側に、本通りを横断した踏切に設置されていた警報機の基礎部分が現存しています。

尾道駅から宮の前の沿線

尾道駅から御調へ北上する下り電車は、尾道駅北口を出発すると山陽本線と並行するように西へ進み、天満町に所在した尾道鉄道株式会社の本社建物（後にホテルとなり現在はマンションが建つ）横をカーブし、進路を北へ取ると「西尾道」駅へ入りました。昭和八年（一九三三）に尾道駅と接続するまでの尾道側の起終点が西尾道駅で、その北側には東洋繊維尾道工場（旧横浜帆布工場）が広がっていました。現在地で見ると天満町のマンシオン街からイオンスタイル尾道、ダイキ尾道店の並ぶ一帯になります。
西尾道駅から北上すると「地方事務所裏（戦前は農会裏）」で、県の出先機関となる御調地方事務所への最寄り停車場でした。続いて「青山病院前」に停車しますが、戦前にあつては「女学校前」という名の停車場でした。尾道で女学校と言えば尾道東高校の前身となる尾道高等女学校（市立次いで県立）が知られますが、こちらは昭和四年（一九二九）に開校した共立尾道高等女学校で、栗原町立の女学校を経て昭和十二年（一九三七）に栗原町・尾道市の合併によって尾道市立高等女学校となりました。
女学校前を出ると「宮の前」の停留所で、宮は栗原村の氏神・鳥須井八幡神社を意味し、その参道入口を示します。「宮の前」の呼称は、おのみちバス（旧尾道市営バス）の停留所名で今も残り、オノテツの痕跡と記憶を僅かに伝えています。



木ノ庄町末政に残る尾道鉄道第4号トンネルの遺構 令和5年（2023）11月14日・西川真理子氏撮影
トンネルの総延長は80mで、内部で緩やかにカーブしている。坑門は煉瓦と石を併用して築造され、煉瓦の積み方はフランドル（フランス）積み形式。参照：八幡浩二「産業考古学からみた尾道鉄道」『タイムスリップ・レール・オノテツ—尾道鉄道データ・ファイル—』所収（尾道学研究会・2011年刊）

木ノ庄バイパス南口交差点の傍に在った「石畦」駅は、昭和三十二年（一九五七）二月の市・石畦間廃止以降の北の起終点でした。石畦から畑の峠を上り、木ノ庄西小学校の上を示す「西校上」、峠の頂上部に位置する「畑」駅を経て御調へと下って行き、「諸原」駅へ入ります。

石畦駅から諸原駅の沿線

この区間はトンネルが続き、一号から八号までの八つの隧道（トンネル）が見られました。国道敷設後は一号と二号については国道のトンネルとその横を行く歩道用のトンネルになり、三号・五号・六号は国道敷設で消失し、七号・八号も国道トンネルに変わりました。中間に位置する四号トンネルは国道から逸れた位置にあり、石組みの上にレンガを積み上げたその威容は、当時の姿をそのまま留めたもので、沿線に点在するオノテツ遺構の中で最も貴重な遺構として着目されます。



諸原区間に見たスイッチバック 戦前・中西正吾氏撮影
右手線路が尾道方面 両線が交わる右下の線路の先に諸原駅が位置する。



諸原駅のホーム 昭和30年（1955）5月27日・細川延夫氏撮影、広島県立歴史博物館蔵・画像提供。
手前が尾道及び御調方面。ホームには諸原の名所案内が掲示されている（6頁「諸原駅霊蹟御案内」参照）。

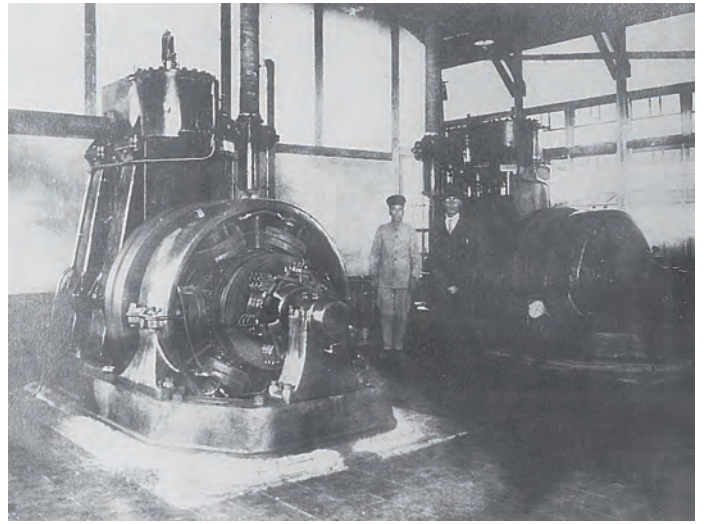
5 【オノテツ遺構を探せ！】 石畦駅跡から国道184号線を北へ少し進むと、昭和21年8月13日に発生した脱線転覆事故の犠牲者を慰霊する石碑が建ちます。

三成駅から木頃本郷の沿線



三成駅のホーム 離合ができる二面二線の駅だった。撮影時期不明・西井亨氏提供 尾道市蔵

三成駅は現在の国道一八四号線沿い、エネオス美ノ郷SS（古川石油）の横路を入った先にある駐車場の場所に所在しました。電車が到着するとホームに立つ駅員が「みなーり、みなーり」と大きな声でアナウンスするのですが、独特な言い回しから「みなー降り」と聞こえるのが三成名物？だったらしく、駅員は加藤さんという駅長だったと地元の思い出話に聞かれます。



左：三成車庫 後方に火力発電所時代の煙突が見える。昭和39年（1964）3月23日・中川隆人撮影 尾道市蔵／右：発電所の発電機 戦前・前田六二氏提供

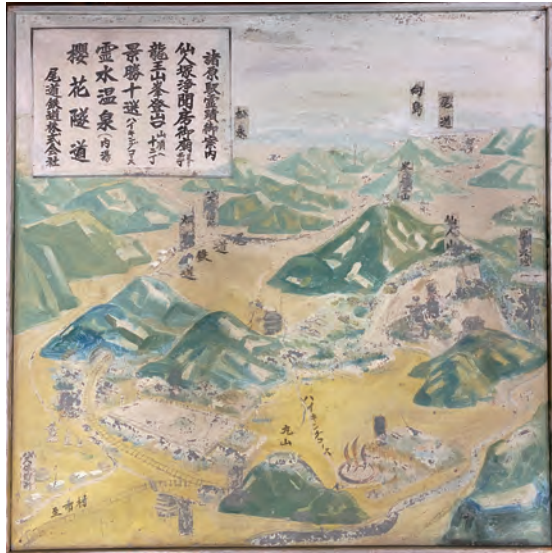


木頃本郷駅のホーム 撮影時期不明・河本泰行氏提供 ※AIと手動による微調整でカラー化（浦谷典功氏作成）

三成駅を出ると、一八四号線・木梨口交差点の傍に在った「木梨口」くく白江の変電所近く、山沿いにカーブする地点の「遊亀橋」の停留所を経て、美木中学校下の商店街沿いに位置する「木頃本郷」駅（開通当初は「美ノ郷」駅）に至ります。ここから次の「石畦」駅までの間には、線路の痕跡を示すかつての電車道や、レールに敷かれた枕木の一部が現存しています。また、三成く木頃本郷間の藤井川沿いでは、夏になると「ホタル狩り」に訪れる行楽客が多く、オノテツでは「ホタル電車」が運行されて賑わいました。



【オノテツ遺構を探せ！】 木頃本郷駅跡の北側、木門田川を跨ぐ橋を渡った先に電車道の遺構が確認され、傍に枕木も再利用して残されています。



御調歴史民俗資料館の展示品として収まる案内板

勾配のきつい鉄路にあつて、電車を方向転換させて折り返ししながら進行するスイッチバック式の駅だった諸原駅には、「諸原駅霊蹟御案内」という観光案内がホームに設置されていました。前頁下・諸原駅の写真に見えるのがそれで、この看板は御調歴史民俗資料館の展示品として収まっています。駅から諸原池へ続く道の途中にあるお堂が浄聞房というお堂で、仙人塚は諸原の昔話に語られる仙人のお墓。お堂の傍には仙人の足跡という窪んだ石も見られます。お堂の後背に広がる山が仙人山とも言いますが、龍王山。霊水温泉は仙人伝説にあやかつたようですが、付近の方の証言によれば、諸原川の水を汲み上げて沸かした温泉だったようです。桜花隧道は、数百年の老桜が咲き乱れる桜のトンネルで、春の諸原駅名物として知られました。

諸原駅霊蹟御案内

北の起終点となる市駅は、現在の中国バス市出張所の位置に在り、車庫に見られる石垣は市駅時代の遺構になります。

駅の跡から東へ進むと雲雀旅館跡の建物があり、その横を流れる川に架かる橋には「えきまえばし」とあります。当時は旅館に飲食店、オノテツの貨物取扱いのお店が並んでいたといひます。



市駅付近 新旧の車輛が並ぶ 撮影時期不明・前田六二氏提供 右手が尾道方面

北の起終点・市駅へ

【参考文献】前田六二編『消えた鉄路尾道鐵道』一九九二年刊
尾道学研究会編『タイムスリップ・レール・オノテツ』尾道学研究会・二〇一一年刊
林良司編著『オノテツの車窓から時空を旅する尾道鉄道沿線紀行』尾道新聞社・二〇二二年刊。



尾道に関する資料求む！

尾道に関する文書（文字資料）、写真、映像、地図、尾道的话题を報じる新聞・雑誌、尾道関係の図書など、市史編さん委員会事務局及び文化振興課では、幅広い分野にまたがり、史資料の収集に努めています。他に地域に伝わる言い伝え（昔話）や風習、祭礼、芸能など、無形のものも対象となります。資料・情報の提供については文化財係または下記事務局までご連絡ください。
受付時間は平日 8:30 ~ 17:15
電話：0848-20-7425（文化財係）

編集後記

尾道の交通史・鉄道史では、とかく現在の山陽本線、旧山陽鉄道にばかり目が行きがちですが、戦前・戦後の一時期に存在した小さな私鉄・尾道鉄道も、その内に記録され、伝えられるべき尾道史の一頁です。新尾道市史では、近代編（戦前期）・現代編（戦後・廃線まで）の交通で取り上げられます。

- | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----------|-----|-----|------|----------|-------|-----------|-----------|
| ⑪ | ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ | ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 通史編 | 通史編 | 民俗編 | 通史編 | 通史編 | 地理編 | 文化財編 | 資料編 | 資料編 | 資料編 | 文化財編 |
| 現代 | 近代 | | 原始・古代・中世 | 近世 | | 下巻 | 考古・古代・中世 | 近代・現代 | 近世 | 上巻 |
| | | | | | | | | | 販売中・三〇〇〇円 | 販売中・二七〇〇円 |

市制施行 120 周年にあたる平成 30 年度（2018）をふりだしに、令和 10 年度（2028）までの 11 年計画で、新市域を網羅した新尾道市史を随時刊行して参ります。

『新尾道市史』全11巻ラインナップ